

令和5年度 自己評価実践報告書

学校名 福島県立会津西陵高等学校

I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョンについて』

(1) 『学校経営・運営ビジョン』

「友と学び、ともに鍛えん」の校訓のもと教育目標を「目指す生徒像：他者と協働しながら学ぶことを楽しむ、心身共に健康な生徒」、「目指す生徒の将来像：郷土を愛し、活力ある地域づくりに貢献できる人物」と定め、地域に根ざし、地域の期待に応える学校づくりを推進している。

(2) 教育目標、重点努力事項等作成のねらい、意図等

本校は旧大沼高等学校と旧坂下高等学校が進めてきた教育の良さを継承しつつも、様々な新しい挑戦をも厭わない姿勢を持って、本校に課せられた使命をしっかりと果たすための教育目標・重点項目を以下のように定めた。なお、重点項目は評価の3観点を意識することで、目標に基づく計画、実践、評価、改善が一体となっていくことを意図している。

○知識・技能

- ・ 地域的・社会的な課題に対する知識・理解
- ・ 情報・ICT活用の基本的な知識・技能

○思考・判断・表現

- ・ 現状を正しく捉えて課題を設定する力
- ・ 表現・発信する力

○学びに向かう力・人間性

- ・ 学びを振り返る力
- ・ 集団の一員として自他や社会のよりよいあり方を目指し取り組む力
- ・ 答えのない課題にも、諦めず、粘り強く取り組む力

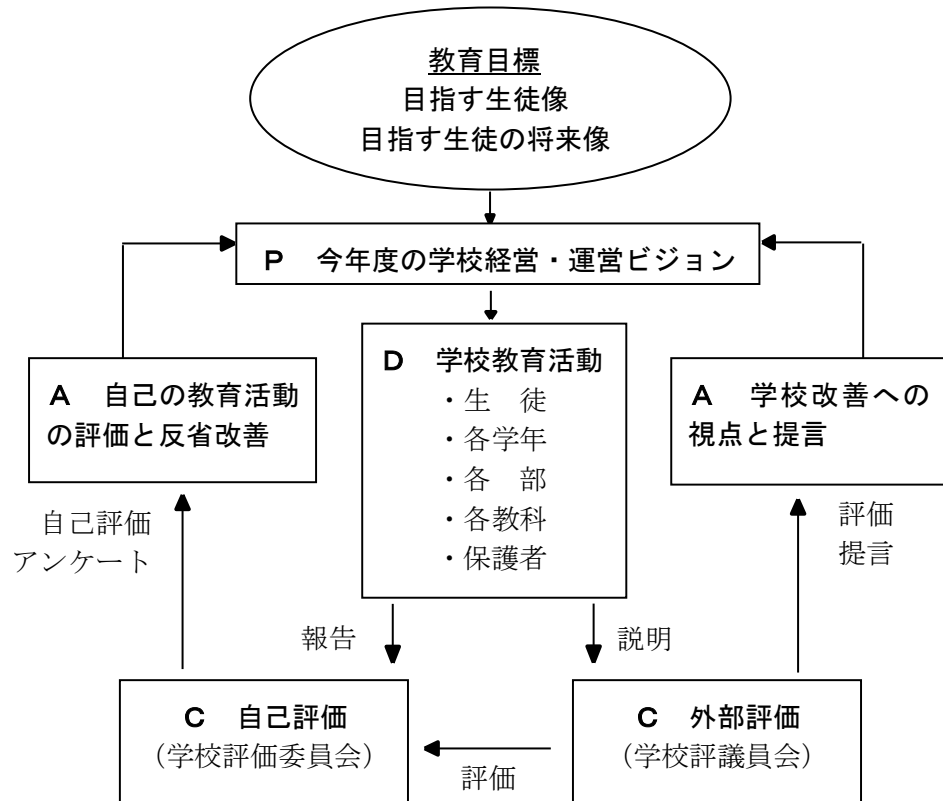
以上のような知識・技能及び力を育成し、生徒が将来、主体的な地域社会の有為な形成者として社会で活躍できるように素養を身につけさせたいと考えている。そのために総合的な探究の時間を学びの柱に据え、各教科、科目が互いに有機的につながり、より効果的な学習指導が展開できるように進めている。

(3) 組織的にどのように作成したか、作成のプロセス等

企画開発部を中心に、本校の果たすべき使命を念頭に教育目標に合わせて、生徒に必要な知識・技能及び力は何かを整理し、重点項目及び本校のルーブリックの原案を作成した。その後学校評価委員会や各部署で検討し、職員会議で完成させた。

2 校内組織体制について

(1) 組織図



学校評価委員会の構成

校長、教頭、事務長、教務主任、教務副主任、生徒指導主事、進路指導主事、図書主任、保健主事、総務部長、1 学年主任、2 学年主任、3 学年主任

(2) 組織作成のねらい、意図

学校経営・運営ビジョンは、企画開発部が中心となって作成した学校ルーブリックをもとに学校評価委員会が原案を作成し、全教職員に提示し意見を募り決定する。

学校評価については、学校評価委員会が作成した年間評価計画に沿って、教務部と企画開発部、学校評価委員会が連携して各種アンケートを実施し、アンケート結果の分析と評価を行う。分析と評価については、3 回実施する学校評議員会において学校評議員から意見を聴取し、学校評価委員会で最終報告書に取りまとめる。職員会議で意見交換するとともに課題を共有し、次年度の学校改善と授業改善に生かす。

3 自己評価年間計画について

(1) 年間計画表

月	日	自己評価	学校評議員による評価
4	4	<第1回学校評価委員会> 学校評価の計画、学校経営・運営ビジョン	学校経営・運営 ビジョンの配 付
	5	<職員会議> " (※ビジョン HP 掲載)	
	18	努力目標 (各学年、部、教科) の提出	
	27	<職員会議> 努力目標 (各学年、部、教科)	
	30	<PTA総会> 学校経営・運営ビジョンの説明	
6	8		<第1回学校 評議員会>
7	20	第1回生徒自己評価・授業評価の実施	
9	26	<第2回学校評価委員会> 生徒自己評価・授業評価の結果・分析、学校 評価アンケート項目の検討、中間評価の計画	
	28	<職員会議> "	
10	上旬	学校評価アンケート (教職員、生徒、保護者) の実施	
11	16	中間評価 (各学年、部、教科) の提出	アンケート結 果・分析の報告
	24	<第3回学校評価委員会> 学校評価アンケートの結果・分析 中間評価の結果・分析 年度末評価の計画、次年度学校経営・運営ビジョン策定の計画	
	28	<職員会議> "	
	下旬	学校評価アンケートの結果・分析 HP にアップ	
12	5		<第2回学校 評議員会>
	19	第2回生徒自己評価・授業評価の実施	
1	22	<第4回学校評価委員会> 生徒自己評価・授業評価の結果	
	24	<職員会議> "	
	25	年度末評価 (各学年、部、教科)、次年度学校経営・運営ビジョン (実践 目標案) の提出	
2	5	<第5回学校評価委員会> 年度末評価の結果・分析、自己評価実践報告書、 次年度学校経営・運営ビジョン (実践目標の検討)	年度末評価結 果・自己評価実 践の報告、評価 書の依頼
	6	<職員会議> 年度末評価の結果・分析、自己評価実践報告書、次年度学 校経営・運営ビジョン (実践目標の検討)	
	20		<第3回学校 評議員会>
3	15	<第6回学校評価委員会> 評価書、次年度学校経営・運営ビジョン	
	19	<職員会議> 自己評価実践報告書・評価書 (※HP 掲載)、次年度学校経 営・運営ビジョン	

(2) 作成のねらい、意図

P D C A サイクルによる効果的な実践、検証が行えるように、今年度の学校評価の計画を立てて実施した。学校評価委員会においては、アンケート結果及び各学年・部・教科の評価について、全職員でその結果を検証する場を持ち、本校の課題を共有することができるようにし、学校評議員会においては、年3回開催して評価及び提言をしていただくこととした。

生徒・保護者・教職員対象の学校評価アンケートを年1回実施することとした。アンケートの質問項目は教育目標やルーブリックの内容に関するものをバランス良く配置するとともに、各部署がそれぞれ評価できるようにこちらについてもできるだけ均等になるように内容を吟味した。また生徒の授業評価は7月と12月の2回実施し魅力ある授業へと改善を図った。質問内容については今年度から新入生の一人一台端末が導入されたことを踏

まえ、ICT活用についての項目を盛り込むなど工夫した。各学年・部・教科の自己評価については中間と学年末に2回実施し、それぞれ分析を行い、PDCAサイクルにより改善を図る計画とする。

(3) 自己評価年間実施状況（学校評価委員会及び各種アンケートの実施）

7月に生徒を対象に「第1回授業評価」を実施した。集計した結果は学校評議員会及び職員会議で協議し課題を共有した。

10月に生徒及び保護者、全教職員を対象に「学校評価」を実施した。分析と評価を行い、学校評価委員会と職員会議で課題を共有した。第2回学校評議員会で提示し、評議員からご意見を頂いた。

12月に「第2回授業評価」と「学校ルーブリックに基づく生徒の自己評価」を実施した。授業評価は第1回目と比較し、学校評価委員会と職員会議で課題を共有した。次年度の「各学年・部・教科努力目標」の策定に活用した。

2月に第3回学校評議員会を行い、総括と課題を共有した。

II 評価結果の概要

1 実施方法等（評価基準 A：下線部箇所なし、B：下線部1箇所、C：下線部2箇所以上）

項目	年度末評価			
	実施部署	評価	実施方法	コメント
学校評価委員会	学校評価委員会	A	年6回	アンケートや学校評議員会、各部署による評価の時期に合わせて実施し、計画的どおり学校評価を実施することができた。
学校評価	教務部	A	Classiによる選択式	質問内容や集計結果、分析方法などは概ね良好。
授業評価	教務部	A	Classiによる選択式	生徒からの率直な評価が結果に反映され、改善に役立てることができた。
学校ルーブリックに基づく生徒の自己評価	企画開発部	C	Classiによる選択式	年間計画では2回実施する予定だったが、 <u>12月の1回のみの実施となった。初めて評価を行う1年生に対する説明が不足していた。</u>
各部・学年・教科自己評価	各部 学年 教科	B	目標設定 中間評価 年度末評価 計3回	中間評価では評価Cがある部署が20部署中10部署、年度末評価では3部署に減ったが、 <u>目標設定の検討が少し不十分であった。</u>
学校評議員会	教頭	A	年3回	評議員の方々には多角的な視点で物事をとらえるため、率直な意見をいただくことができた。真摯に受け止め、学校改善につなげる。

2 各アンケート、各学年・部・教科自己評価の実施日

評価者	内容	時期	担当
生徒	授業評価	第1回 7月20日(木)	教務部
		第2回 12月19日(火)	
	自己評価	12月19日(火)	企画開発部
保護者	学校評価	10月20日(金)～10月30日(月)	教頭 教務部
教職員			
各部 学年 教科	自己評価	中間評価 11月28日(火)	教頭 企画開発部
		年度末評価 2月7日(水)	

3 アンケート実施状況

(1) 学校評価アンケート（10月）

	生徒	保護者	教職員
対象数	284	284	39
回答数	284	238	39
割合%	100	83.8	100

(2) 授業評価アンケート、学校ルーブリックに基づく生徒の自己評価

	授業評価						自己評価（12月）		
	第1回（7月）			第2回（12月）			1年	2年	3年
	1年	2年	3年	1年	2年	3年			
対象数	84	109	95	82	108	95	82	108	95
回答数	83	99	94	82	108	95	81	107	94
割合%	98	90	99	100	100	100	99	99	99

4 評価基準について

評価		1	2	3	4
評価 基準	学校 評価	大変 そう思う	まあまあ そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
	授業 評価	よく あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない

5 年度末評価のまとめ

(1) 年度末評価実施の目的、意図

アンケートを通じた評価により課題を見出し、生徒・保護者・教職員の評価結果を比較・分析をすることで、課題解決のためのよりよい方策を見いだすことを目的とする。

(2) 年度末評価結果の分析、及び結果概況

- ① 学校評価 【添付資料3】
- ② 授業評価 【添付資料4】
- ③ 学校ルーブリックに基づく生徒の自己評価 【添付資料5】
- ④ 各学年・部・教科自己評価（年度末評価） 【添付資料6】

(3) 総括（学校ルーブリック重点努力事項に関して）

- ・基礎学力の定着や主体的に学ぶ意欲を高めるために
家庭学習の習慣化が大きな課題の一つである。コース別の教育課程が実施されたことから、具体的な達成目標を持たせ、学習への意欲の向上を図る。具体的には、学習の大切さや学ぶ楽しさを生徒が見いだせるように授業を改善し、教科等横断的な学びが可能となる学習計画の策定や教科と探究活動の往還を意識して取り組む。
- ・ICT活用の推進のために
企画開発部、教務部を中心に研修や授業研究を含めたICT活用のための方策を次年度以降も継続し、さらに効果をあげていく。授業評価アンケートで生徒の肯定的評価が低かったことから、教員自身の授業力向上に向けて取り組む。
- ・生徒が自分の学びを客観的に振りかえるために
3年間を見通した本校の地域課題探究活動のあり方を確立し、進め方や評価方法など、生徒の主体的な学びを支援し、生徒自らが自身の学習を客観的に振りかえることができるように教育計画を策定する。

III 広報の概要

1 目的や意図

学校評価アンケート、生徒による授業評価アンケートの結果・分析及び各学年、部、教科の評価結果から見えてくる本校の課題を教職員全体で共有し、協働で改善していくことを目的とする。また保護者へも周知し、本校教育活動への理解と協力を得る。ホームページに掲載することで、地域の本校への理解を深める。

2 実施計画、及び実施状況

実施計画及び実施状況は以下のとおり

時期	広報の方法	内 容
4月	P T A総会	学校経営・運営ビジョンを保護者に配布、説明 学校評価計画の説明
	本校ホームページ	学校経営・運営ビジョンを掲載
5月	P T A総会の報告会	学校経営・運営ビジョンを保護者に配布、説明 学校評価計画の説明
2月	本校ホームページ	学校評価アンケート結果と分析をホームページへ掲載
3月	本校ホームページ	自己評価実践報告書および評価書を掲載（予定）

3 実施してみたの反省点等

アンケート調査は、クラッシー（Classi）やGoogle Forms等を活用したオンラインによる回答を実施した。紙媒体での回答も可能とした。保護者の回答率（83.8%）をさらに上げられるよう、次年度も、オンラインと紙媒体を効果的に併用する。

IV 次年度へ向けて

1 評価結果の特徴、自己評価実践の成果等

家庭学習の習慣を定着させることが第一の課題である。この課題は昨年度も明らかになっていたが、改善するまでには至っていない。次年度は、宿題や課題は自分で取り組み、宿題や課題以外にも取り組むことが習慣化できるよう、全職員共通認識のもとで連携をとりながら指導する。

2 自己評価全体の次年度の取組みについて

各学年・部・教科の努力目標は学校経営・運営ビジョンと関連させ、各教科における評価の三観点を踏まえた評価をするために、様式を年度始めに変更した。課題を見出し、改善策を立てやすくなり、授業改善に活かすことができるため、次年度も今年度の様式を使う。

3 次年度へ向けての課題、改善点、重点努力事項、展望など

本校は、目指す生徒像を「他者と協働しながら学ぶことを楽しむ、心身共に健康な生徒」とし、目指す生徒の将来像を「郷土を愛し、活力ある地域づくりに貢献できる人間」として、総合的な探究の時間における地域課題探究活動を学びの柱に教育活動を実践している。評価結果から見えてきた課題を解決し、学びに向かう力・人間性を育成するため学校全体として組織的に取り組む。

4 終わりに

今年度から、各コース（進学探究、教養探究、情報会計、健康ふくし）の教育課程がスタートし、コースの特色に応じて、教育活動や各種検定試験の資格取得に向けた取組を積極的に行っている。また、生徒は主体的にボランティア活動にも参加し、地域の方々の本校生に対する期待は高まっている。

本校は、今後も、「地域の将来を担う、地域の核として社会に貢献できる人材」を育成し、地域の期待に応え、保護者や地域から信頼される学校づくりに努める。

添付資料

【添付資料1】学校経営・運営ビジョン

【添付資料2】学校ループリック

【添付資料3】学校評価アンケート結果及び評価

【添付資料4】授業評価アンケート結果

【添付資料5】学校ループリックに基づく生徒の自己評価アンケート結果

【添付資料6】各学年・部・教科自己評価（年度末評価）



『友と学び ともに鍛えん』

福島県立会津西陵高等学校

【教育目標】

◎目指す生徒像

他者と協働しながら学ぶことを楽しむ、心身共に健康な生徒

◎目指す生徒の将来像

郷土を愛し、活力ある地域づくりに貢献できる人物

キャリア指導推進校として、生徒の多様な進路希望を実現させるため、今年度より進学探究、教養探究、情報会計、健康福祉の四つのコースに分かれた授業が展開されます。また、地域課題探究活動をさらに深化させていきます。これらを、本校での学びの二つの柱として、生徒一人ひとりに対応したきめ細やかな指導を実践し、「地域の将来を担う、地域の核として社会に貢献できる人材」を育成してまいります。

校長 伊東 光司

知識・技能

○地域的・社会的な課題に対する知識・理解

- ・基礎学力の定着のため、学ぶ意欲を高める授業・個別最適化の授業を展開し、対話的・主体的で深い学びを実践する。
- ・地域探究学習を通じ、地域に対する興味・関心を引き出し、社会的課題に対する知識・理解を深める学びを実践する。

○情報・ICT活用の基本的な知識・技能

- ・総合的な探究の時間を柱とした教科等横断的な学びの中で情報を収集し活用する力を育成する。
- ・ICTを活用した効果的な情報収集、情報発信の力を育成する。

思考・判断・表現

○現状を正しく捉えて課題を設定する力

- ・学習を通じ、自ら課題を見出す力を育成する。
- ・総合的な探求の時間や各教科での学びで得た情報を整理・分析する力を育成する。
- ・自ら設定した課題について、収集・整理・分析した情報を用いて論理的に思考する力を育成する。

○表現・発信する力

- ・様々な学びを通して、自分の意見を持ち、積極的かつ効果的に他者に伝えようとする力を育成する。

主体的な地域社会 の有為な形成者

学びに向かう力・人間性

○集団の一員として自他や社会のよりよいあり方を目指し取り組む力

- ・当事者意識を持ち、自ら進んで課題解決に向かう力を育成する。
- ・他者と価値観を共有し、協働して課題解決に向かう力を育成する。
- ・基本的生活習慣を整え、自らの健康を維持向上する力を育成する。

○答えのない課題にも、諦めず、粘り強く取り組む力

- ・困難な課題にも諦めずに粘り強く立ち向かう力を育成する。

○学びを振り返る力

- ・自らの学びを客観的に振り返り、次の段階へと着実に歩みを進められる力を育成する。

教育環境の充実

○キャリア指導推進校として

- ・「学びの基礎診断」の活用や家庭学習習慣の確立を通して基礎学力の徹底強化を図る。
- ・4つのコース（進学探究・教養探究・情報会計・健康福祉）を充実し、生徒の多様な進路希望を実現させる。
- ・図書及び図書検索システムを充実し、図書館利用の促進を図る。

○総合的な探究の時間を学びの柱として

- ・総合的な探究の時間を学びの柱とし、教科等横断的な学習を展開する。

○会津を代表する、地域に根ざした高校として

- ・会津美里町・会津坂下町などを学びのフィールドとした地域探究学習を推進し、地域との連携強化を図る。

○個別支援教育推進校として

- ・家庭との連携を図り、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の活用による教育相談活動を充実し、生徒一人ひとりに寄り添った指導を行う。

○信頼される学校として

- ・適切な学校評価を行い、PDCA 組織マネジメントを機能させ、常に本校の果たすべき役割を実践していく。
- ・地域や保護者との連携を推進し、PTA 活動や各種学校行事等への積極的参加を図る。

令和5年度 会津西陵高校 学校ルーブリック

企画開発部

資質・能力の三つの柱	項目番号	育てたい資質・能力	項目(具体化したもの)	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
				重要性・必要性の理解	取り組もうとする姿勢	学校で指導した内容の定着	学習の自走化・自律化	「育てたい資質・能力」が身についた状態
知識・技能	1	地域的・社会的な課題に対する知識・理解	基礎的・基本的な知識・技能(基礎学力・社会常識) / 地域に対する知識・理解 / 社会的課題に対する知識・理解	地域的・社会的な知識を身につける必要性を自覚している	地域的・社会的な知識を身につけようとしている	学校で学習したレベルの地域的・社会的な知識が身についている	地域的・社会的な課題に関する知識が身につき、学校で学習した内容を超えて広がりや深まりを持っている	身についた地域的・社会的な知識を、地域的・社会的な課題に取り組むために有効に活用できる
	2	ICT活用の基本的な知識・技能	ICT活用能力	ICT活用の必要性を自覚している	ICT活用の基本的な知識・技能を身につけようとしている	学校生活に必要なICT活用能力(基本的な知識・技能)が身についている	身につけたICT活用能力を用いて活動することができ、必要に応じてその能力を高めることができる	身につけたICT活用能力を有効に用いて活動し、必要に応じてその能力を高め、目的や効果を考えて取捨選択したり、組み合わせたりできる
思考・判断・表現	3	現状を正しく捉えて課題を設定する力	情報の整理・分析 / 課題設定能力 / 論理的思考力 / 当事者意識	現状把握や課題設定の重要性を理解している	地域の現状を把握し、適切に課題を設定しようとしている	学校での学習に基づき、地域の現状を把握して課題を設定できる	情報を吟味して正しく現状を捉え、それを踏まえて適切な課題を設定できる	情報を吟味して正しく状況を捉え、見通しを持って、自らの在り方・生き方を踏まえた課題を設定できる
	4	表現・発信する力	まとめる力 / 表現力 / 発想力 / 想像力 / 共感性	適切に表現・発信する能力の必要性を理解している	適切に表現・発信する能力を身につけようとしている	学校での学習に基づいて表現を工夫し、発信できる	目的に対しての効果を意識して表現を工夫し、発信できる	相手・場・目的を踏まえ、適切かつ効果的な表現を用いて発信できる
学びに向かう力・人間性	5	学びを振り返る力	メタ認知能力	学びを振り返り、見通しを持つことの必要性を理解している	学びを振り返り、自己の学習に適切な見通しを持つようとしている	学びを振り返り、自己の学習に対しての見通しを持つことができる	学びを振り返って自己の学習を見直し、見通しを持って今後の学習を工夫している	自己を客観的に振り返り、適切に見通しを立てて後の学びを改善するという学習サイクルが確立している
	6	集団の一員として、自他や社会のよりよい在り方を目指し取り組む力	主体性 / 責任感 / 協働性 / 積極性	集団の一員としての自覚を持っている	集団の一員として、自他や社会のよりよい在り方を目指している	集団の一員として周囲と協力し、自他や社会のよりよい在り方を目指し行動できる	自分の役割を意識しながら、集団の一員として自他や社会のよりよい在り方を目指し、自分がすべきことを考え、行動できる	自他や社会のよりよい在り方を目指して主体的に行動し、他者や集団による影響を与えることができる
	7	答えのない課題にも、諦めず、粘り強く取り組む力	粘り強さ / 自律性	答えのない課題にも諦めず、粘り強く取り組む必要性を理解している	答えのない課題にも諦めず、粘り強く取り組もうとしている	答えのない課題にも諦めず、粘り強く取り組むことができる	答えのない課題に対して多角的な視点で情報を収集しながら、粘り強く取り組むことができる	多角的な視点で情報を収集しながら、答えのない課題に対して粘り強く自律的に取り組み続けることができる

- 1 実施時期 10月
- 2 調査対象 生徒、保護者、教職員
- 3 質問項目

質問項目を設定するにあたっては本校の学校経営運営ビジョンを念頭に検討した。

質問項目1は、本校の教育目標の目指す生徒の将来像についての質問である。質問項目3、5、6、7、8は、学校経営・運営ビジョンで示された目標を反映させたものである。

なお、結果及び評価については本校のホームページにおいて公開する。

質問項目		関連
1	本校は、「郷土を愛し、活力ある地域づくりに貢献できる人物」を育てる学校である。	教育目標について
2	本校は、安心して学校生活を送ることのできる学校である。	学校安全について
3	本校は、基礎学力を身につけさせる十分な教育を行っている。	基礎学力について
4	本校は、適切な課題を与えるなど、家庭学習の習慣が身につくように指導している。	学びに向かう姿勢・態度を育む教育
5	本校は、地域や社会の仕組みを理解し、課題解決に必要な知識を身につける教育を実践している。	地域理解・課題解決力を育む教育
6	本校は、授業でICTの活用やその使い方の教育について積極的に取り組んでいる。	ICT活用能力を育む教育
7	本校は、情報を収集・分析し、自分の意見をまとめ他者に伝える力を育てている。	意見をまとめ・発信する力を育む教育
8	本校は、社会の課題に対し、他者と協力し、粘り強く取り組む姿勢を育てている。	課題に向かう姿勢・態度を育む教育
9	本校は、基本的な生活習慣（時間を守る、あいさつ、服装）を確立させる指導を行っている。	基本的な生活習慣の指導
10	本校は、生徒の悩みや不安に親身になって相談に乗っている。	教育相談の充実
11	本校は、学校での必要な情報をよく知らせて、家庭と密接な連絡を取っている。	家庭と学校との連携
12	本校は、生徒の進路希望に応じた適切な進路指導を行っている。	進路指導の充実
13	本校には、必要な図書、資料が用意され、閲覧できる環境が整っている。	図書館の充実
14	本校は、環境美化に努め、校内の清掃が行き届いている。	環境美化
15	本校は、学校行事が充実している。	学校行事の充実
16	本校は、部活動や生徒会活動に積極的に取り組んでいる。	部活動、生徒会活動の充実
17	本校は、ボランティア活動を積極的に推奨している。	ボランティア活動の奨励
18	本校は、探究学習や行事等をとおして地域との連携を十分に図っている。	地域との連携の充実
19	本校は、PTA活動に積極的に取り組んでいる。	PTA活動の充実
20	本校は、学校をよく理解してもらうために、適切な広報活動（HPの活用など）を行っている。	広報活動の充実
【評価】 1：よくあてはまる 2：ややあてはまる 3：あまりあてはまらない 4：まったくあてはまらない		

4 質問項目と校務分掌との関連

校務分掌に関して全ての部署に関わる質問を設定し、校務運営改善につながるようにした。

●：直接的な関連あり ○：間接的な関連あり

質問 校務分掌	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
HR	●	●	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●		○	○	○	○	○	○	
教科	●		●	●	○	●	●	○	○	○		○	○							
教務部	●		●	●	○	●	●	○				○			●					●
保健厚生部	●	●								●				●				○		
生徒指導部	●	●							●	●	○	○			●	●	●			
進路指導部	●		○	○			○		●		○	●			●					
図書部	●		○	○	○								●							
企画開発部	●		○	○	●	●	●	●					○		○			●		
総務部	●	○																	●	○
委員会	●								●				●	●	●	●	●			○

5 調査概況

(1)調査方法 オンライン (Classi) 上での回答または調査票による回答

(2)回答率

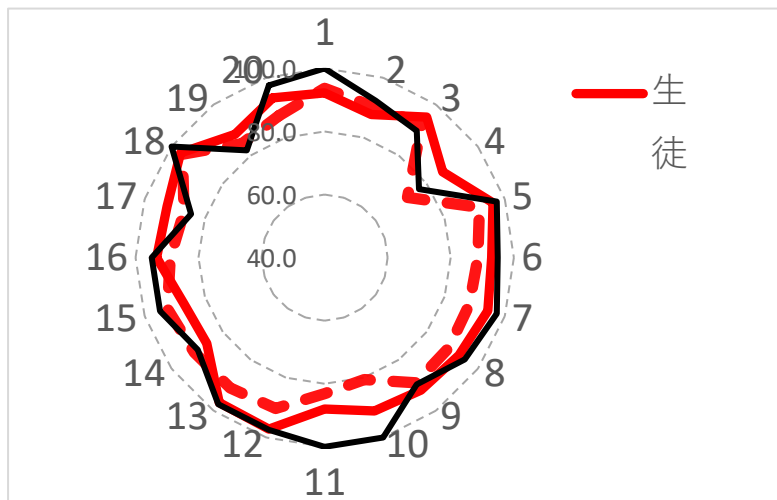
	対象者数	回答者数	R5 回答率%		R4 回答率%
生徒	284	284	100	※休学除く	98.4
保護者	284	238	83.8		80.7
教職員	39	39	100		100

6 結果と評価

(1)評価4と3を合わせた肯定的評価の「①アンケート結果」、「②乖離状況」、「③前年度比較」の結果

質問	①アンケート結果 (評価4+3) ※単位%			②乖離状況 ※単位ポイント		③前年度比較 (R5-R4) ※単位ポイント		
	生徒	保護者	教職員	生徒 (生徒-教職員)	保護者 (保護者-教職員)	生徒	保護者	教職員
1 本校は、「郷土を愛し、活力ある地域づくりに貢献できる人物」を育てる学校である。	92.3	93.7	100.0	-7.8	-6.3	0.6	-0.6	2.5
2 本校は、安心して学校生活を送ることのできる学校である。	87.7	90.3	92.3	-4.6	-2.0	-3.7	-4.0	-5.2
3 本校は、基礎学力を身につけさせる十分な教育を行っている。	95.1	92.4	89.7	5.3	2.7	0.1	-2.7	-7.8
4 本校は、適切な課題を与えるなど、家庭学習の習慣が身につくように指導している。	86.3	72.5	76.9	9.4	-4.5	-3.7	-7.2	-13.1
5 本校は、地域や社会の仕組みを理解し、課題解決に必要な知識を身につける教育を実践している。	96.1	91.6	97.4	-1.3	-5.8	2.1	0.5	-0.1
6 本校は、授業でICTの活用やその使い方の教育について積極的に取り組んでいる。	92.9	88.6	94.9	-2.0	-6.3	-2.1	0.3	-5.1
7 本校は、情報を収集・分析し、自分の意見をまとめ他者に伝える力を育てている。	94.4	88.2	97.4	-3.1	-9.2	0.4	0.0	2.4
8 本校は、社会の課題に対し、他者と協力し、粘り強く取り組む姿勢を育てている。	92.6	88.6	94.9	-2.3	-6.3	-1.7	-1.7	2.4
9 本校は、基本的生活習慣（時間を守る、あいさつ、服装）を確立させる指導を行っている。	91.9	89.1	89.7	2.2	-0.7	-0.1	-4.0	-7.8
10 本校は、生徒の悩みや不安に親身になって相談に乗っている。	91.2	80.7	100.0	-8.8	-19.3	0.5	-2.9	2.5
11 本校は、学校での必要な情報をよく知らせて、家庭と密接な連絡を取っている。	88.0	83.1	100.0	-12.0	-16.9	-3.0	1.8	5.0
12 本校は、生徒の進路希望に応じた適切な進路指導を行っている。	97.2	90.3	97.4	-0.3	-7.2	1.2	0.0	2.4
13 本校には、必要な図書、資料が用意され、閲覧できる環境が整っている。	96.8	91.0	97.4	-0.6	-6.4	1.2	-0.8	-2.6
14 本校は、環境美化に努め、校内の清掃が行き届いている。	86.3	91.1	89.7	-3.5	1.4	0.6	0.1	2.2
15 本校は、学校行事が充実している。	87.0	92.4	94.9	-7.9	-2.4	5.0	7.4	4.9
16 本校は、部活動や生徒会活動に積極的に取り組んでいる。	93.3	89.0	94.9	-1.6	-5.9	1.3	1.6	4.9
17 本校は、ボランティア活動を積極的に推奨している。	92.6	86.9	84.6	8.0	2.3	1.6	4.9	-2.9
18 本校は、探究学習や行事等をおとて地域との連携を十分に図っている。	96.5	95.8	100.0	-3.5	-4.2	1.2	2.7	2.5
19 本校は、PTA活動に積極的に取り組んでいる。	88.4	84.7	82.1	6.3	2.6	-0.6	-1.0	-3.0
20 本校は、学校をよく理解してもらうために、適切な広報活動（HPの活用など）を行っている。	93.3	87.3	97.4	-4.1	-10.1	2.6	-1.0	2.4

上記表中の「①アンケート結果」をレーダーチャートで示す。



(2) 評価

①表中の「①アンケート結果」において、肯定的評価が80%未満の項目について

生徒においては、肯定的評価が80%未満の項目はなかった。

質問項目4で、保護者と教職員の回答が80%を下回った。家庭学習の習慣が十分に確立していない現状を、保護者も認識している。授業内での学び方が家庭での学びへ向かう態度に直結することから、自ら学びに向かう態度を育成するため、学びの変革（教職員の授業改善、生徒の学び方改革）に取り組む。

②表中の「②乖離状況」において、10ポイント以上下回った項目について

質問項目10で、保護者の肯定的評価が教職員の肯定的評価を20ポイント近く下回った。保護者との連携・生徒の状況把握が不足しているものと考えられる。一方、質問項目2の「①アンケート結果」での保護者の肯定的評価は高い。信頼と期待に応えるため、保護者との連携を強化し生徒をより一層支援する。

質問項目11と20で、生徒と保護者それぞれの肯定的評価が教職員の肯定的評価を10ポイント以上下回った。学校からの情報は、SNS(学校ホームページ、Classi)を主な手段とし、必要に応じて紙面でも情報の提供を行っている。学校からどのような情報が提供されたのかが伝わっていないこと、学校ホームページの閲覧やClassiの利用状況に個人差があることなどが要因と考えられる。

③表中の「③前年度比較」において、10ポイント以上下回った項目について

質問項目4で、教職員の肯定的評価が前年度の肯定的評価を10ポイント以上下回った。

参考資料として、1年基礎力診断テスト（4月、8月）における学習力の分析結果を示す。

項目	学習力レベル		令和5年度(人)		R4 8月 1年生(人)
			8月	4月	
授業外 学習	5	周囲のひとに教えることもある	1	1	7
	4	宿題や課題以外も学習する	17	21	26
	3	宿題や課題は自分で取り組む	54	50	61
	2	宿題や課題は答えを写す	6	11	10
	1	授業以外は学習しない	4	2	8
定期試験 学習	5	普段から意識+1週間以上前から学習する	4	3	9
	4	試験の1週間以上前から学習する	32	39	38
	3	試験まで1週間を切ってから学習する	35	34	49
	2	前日や当日に教科書などをみる	9	8	14
	1	試験前に学習することはほとんどない	2	1	2

※学習力レベルとは、「生徒の学習へ向かう意欲・姿勢」の定着度を5～1の5段階で把握するための指標。「学習面（出席・授業準備・提出物）」と「教科面（授業理解姿勢・授業外学習・定期試験学習）」の二つの側面からのアンケート回答結果より算出している。

この表中の項目「授業外学習」からは、自ら学習へ向かう生徒は2割ほどしかいないことが示された。

「レベル3 宿題や課題は自分で取り組む」生徒は6割を超えていることから、教職員が適切で効果的な課題を出すことにより、自ら学習へ向かう生徒を増やすことができる。「生徒の学習へ向かう意欲・姿勢」の育成が本校の課題である。普段の学習活動や総合的な探究の時間等をとおして学びを深め、自らの役割を見出し、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育てられるよう、効果的な教育課程の編成に取り組む。

④回答率について

昨年度は保護者から8割の回答を得るのにおよそ1か月を要したため、今年度はオンライン未回答の70名（25%）の保護者に対し調査票用紙を配付した。回答率は昨年度を若干上回った。

教育活動には保護者の協力と参画が必要不可欠である。普段から教育活動への協力を呼び掛ける。

7 その他

今年度から、各コース（進学探究、教養探究、情報会計、健康福祉）の教育課程がスタートし、コースの特色に応じて、教育活動や各種検定試験の資格取得に向けた取組を積極的に行っている。また、生徒たちは主体的に地域のボランティア活動へも参加し、地域の方々の本校生に対する期待は高まっている。

本校は、今後も「地域の将来を担う、地域の核として社会に貢献できる人材」を育成し、地域の期待に応え、保護者や地域から信頼される学校づくりに努める。

令和5年度 授業評価結果

【添付資料4】

- 設問 1 基礎的・基本的な知識を身につけることができる授業である。
 2 ICTを用いて活動したり、学んだりすることができる授業である。
 3 自分で考えたことをまとめたり、表現したり、発信したりすることができる授業である。
 4 学びを振り返り、自分の学習に見通しを持つことができる授業である。
 5 他の生徒と意見を交わし協働したり、時間をかけて何度も粘り強く考えたりする場面が取り入れられている授業である。

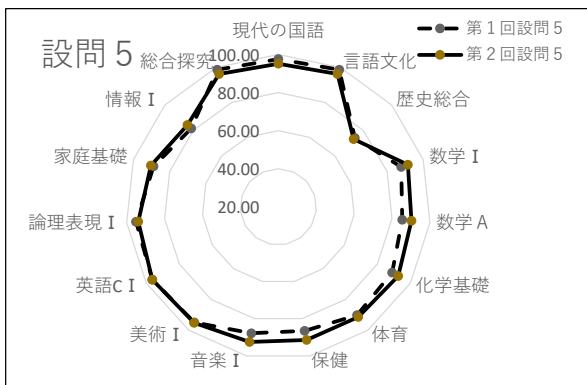
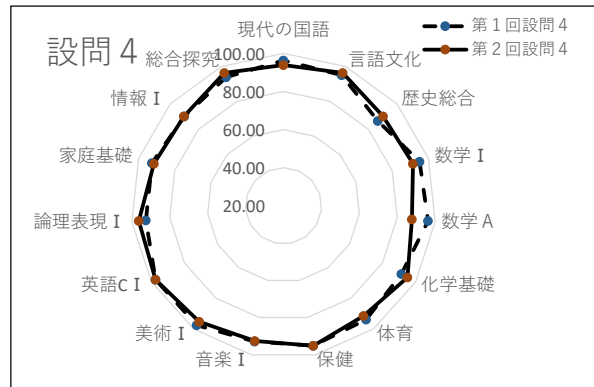
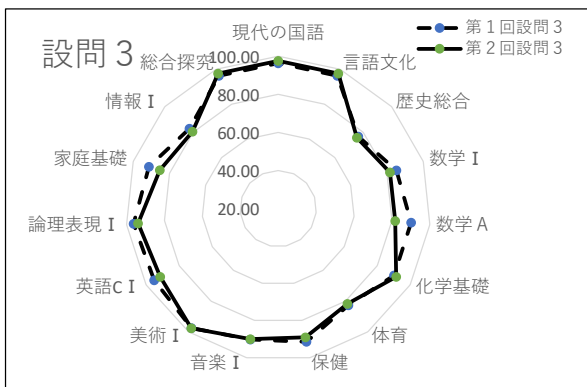
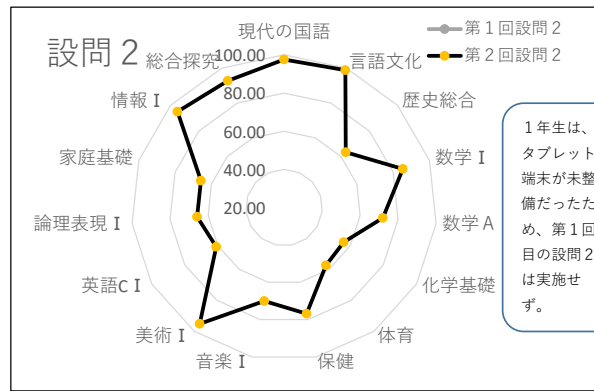
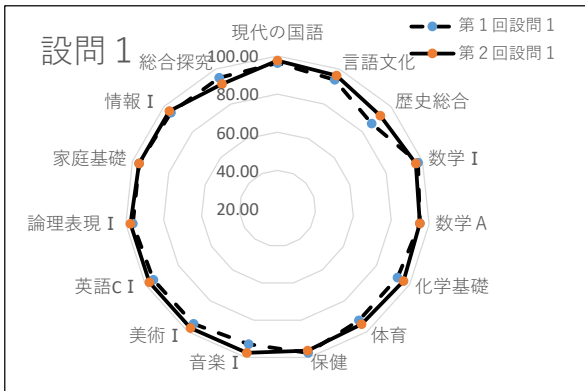
評価基準

- 1 よく当てはまる
- 2 やや当てはまる
- 3 あまり当てはまらない
- 4 全く当てはまらない

※評価1と2を合わせた肯定的評価をレーダーチャートで示す。

	第1回	第2回
実施日	令和5年7月	令和5年12月
回答率	1年 98%	1年 100%
	2年 90%	2年 100%
	3年 99%	3年 100%

【1年】



【分析】

概ね肯定的評価は増加した。

項目3と項目4では同じ科目の肯定的評価が減少した。自分で考えたことをまとめる、表現する、発信することを行う授業となるよう授業改善に取り組まなければならない。

令和5年度 授業評価結果

- 設問 1 基礎的・基本的な知識を身につけることができる授業である。
 2 ICTを用いて活動したり、学んだりすることができる授業である。
 3 自分で考えたことをまとめたり、表現したり、発信したりすることができる授業である。
 4 学びを振り返り、自分の学習に見通しを持つことができる授業である。
 5 他の生徒と意見を交わし協働したり、時間をかけて何度も粘り強く考えたりする場面が取り入れられている授業である。

評価基準

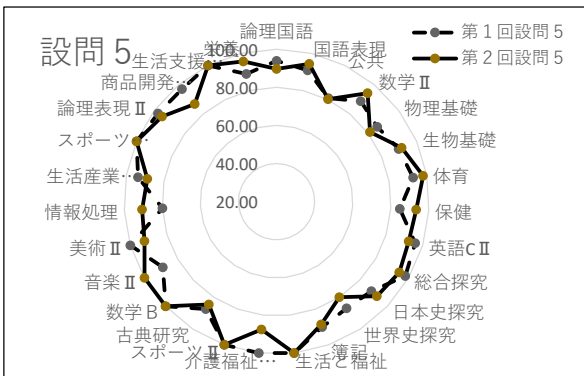
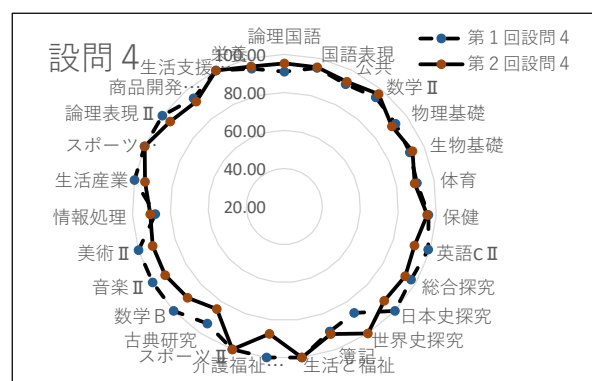
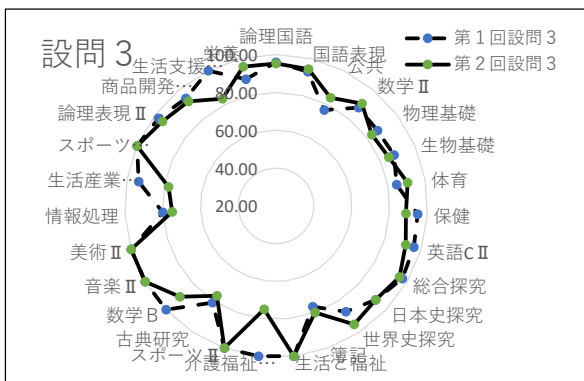
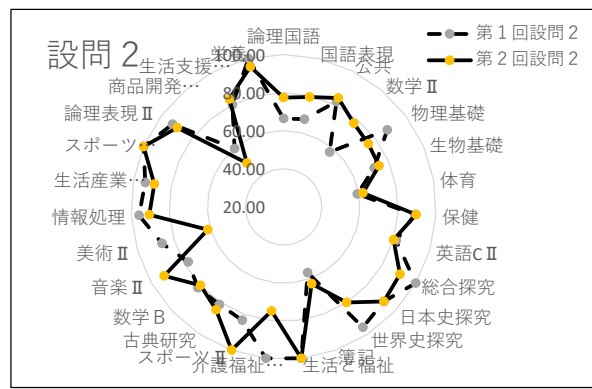
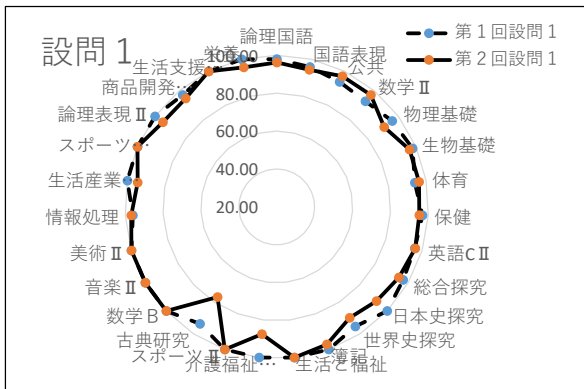
- 1 よく当てはまる
- 2 やや当てはまる
- 3 あまり当てはまらない
- 4 全く当てはまらない

※評価1と2を合わせた肯定的評価をレーダーチャートで示す。

第1回 第2回

実施日	令和5年7月	令和5年12月
回答率	1年 98%	1年 100%
	2年 90%	2年 100%
	3年 99%	3年 100%

【2年】



【分析】

肯定的評価を改善した科目は多い。選択者数が少ない選択科目についてはばらつきが大きい。

項目2については、教科の特性はあるものの、ICTの効果的な活用法を教科内で研究し推進しなければならない。

その他の項目については、概ね肯定的評価が80%以上であることから、主体的・対話的な学びが実践されていると評価する。

令和5年度 授業評価結果

- 設問 1 基礎的・基本的な知識を身につけることができる授業である。
 2 ICTを用いて活動したり、学んだりすることができる授業である。
 3 自分で考えたことをまとめたり、表現したり、発信したりすることができる授業である。
 4 学びを振り返り、自分の学習に見通しを持つことができる授業である。
 5 他の生徒と意見を交わし協働したり、時間をかけて何度も粘り強く考えたりする場面が取り入れられている授業である。

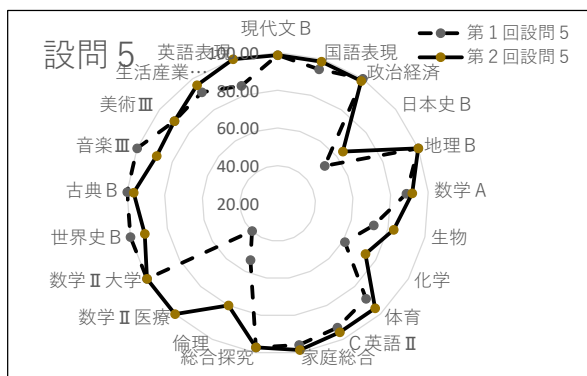
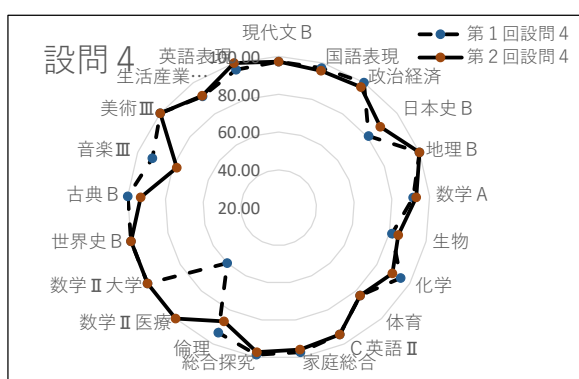
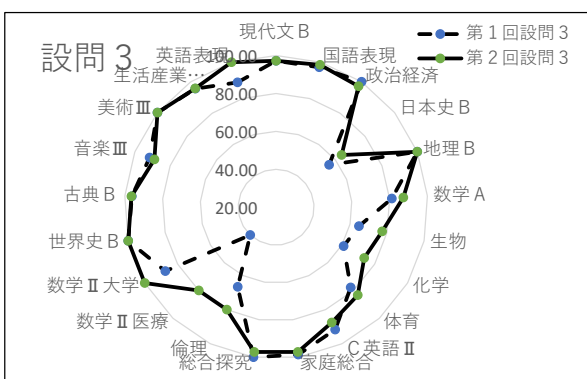
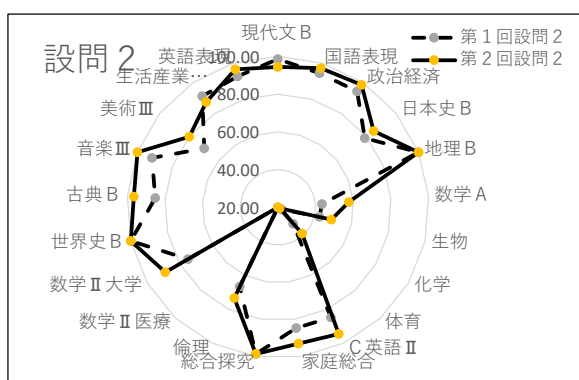
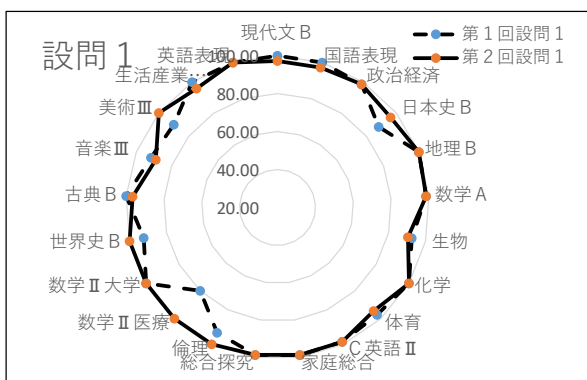
評価基準

- 1 よく当てはまる
- 2 やや当てはまる
- 3 あまり当てはまらない
- 4 全く当てはまらない

※評価1と2を合わせた肯定的評価をレーダーチャートで示す。

	第1回	第2回
実施日	令和5年7月	令和5年12月
回答率	1年 98%	1年 100%
	2年 90%	2年 100%
	3年 99%	3年 100%

【3年1～3組】



【分析】

肯定的評価が極端に低かった科目については、概ね改善された。

項目2については、選択者数が少ない選択科目があり教科の特性もあるため他教科との比較はできないが、肯定的評価が特に低い科目がある。教科内でICTの効果的な活用を模索する。

項目5については、大きく改善された科目が多く、何度も粘り強く考えたりする場面が取り入れられていることから、学びに向かう力を育成することができたと評価する。

令和5年度 授業評価結果

- 設問 1 基礎的・基本的な知識を身につけることができる授業である。
 2 ICTを用いて活動したり、学んだりすることができる授業である。
 3 自分で考えたことをまとめたり、表現したり、発信したりすることができる授業である。
 4 学びを振り返り、自分の学習に見通しを持つことができる授業である。
 5 他の生徒と意見を交わし協働したり、時間をかけて何度も粘り強く考えたりする場面が取り入れられている授業である。

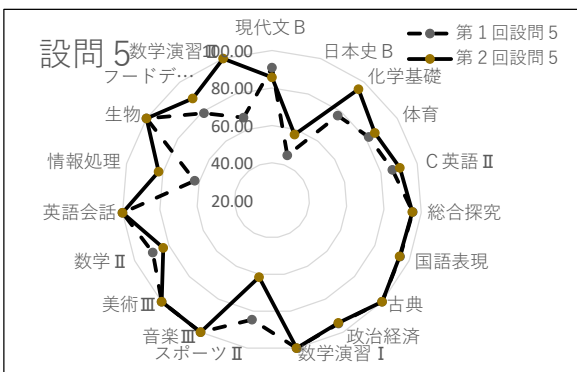
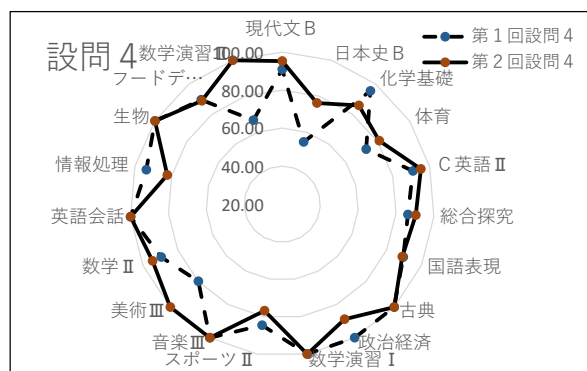
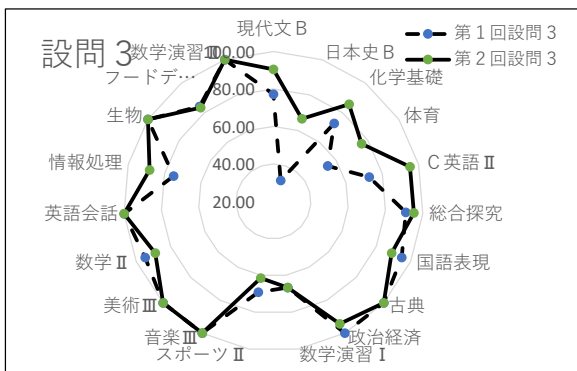
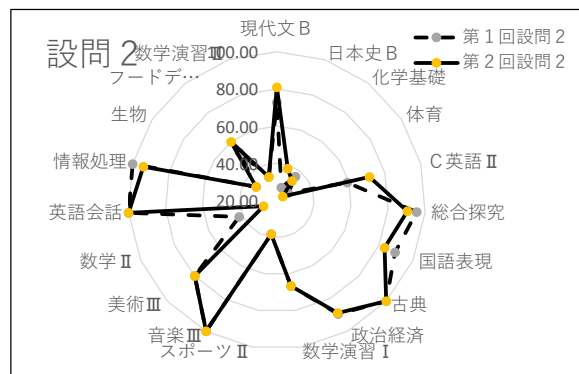
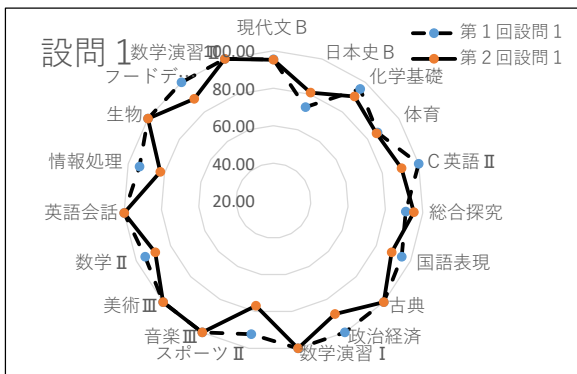
評価基準

- 1 よく当てはまる
- 2 やや当てはまる
- 3 あまり当てはまらない
- 4 全く当てはまらない

※評価1と2を合わせた肯定的評価をレーダーチャートで示す。

	第1回	第2回
実施日	令和5年7月	令和5年12月
回答率	1年 98%	1年 100%
	2年 90%	2年 100%
	3年 99%	3年 100%

【3年4組】



【分析】

肯定的評価が極端に低かった科目については、概ね改善された。

項目2については、選択者数が少ない選択科目が多く教科の特性もあるため他教科との比較はできないが、肯定的評価が特に低い科目がある。教科内でICTの効果的な活用を模索する。

項目3、4、5については、大きく改善された科目が多いことから、主体的、対話的で深い学びが実践されたと評価する。

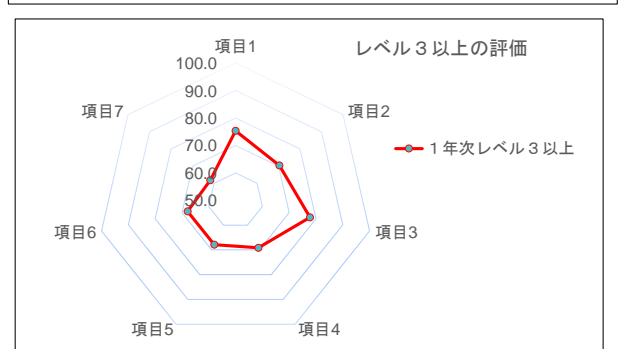
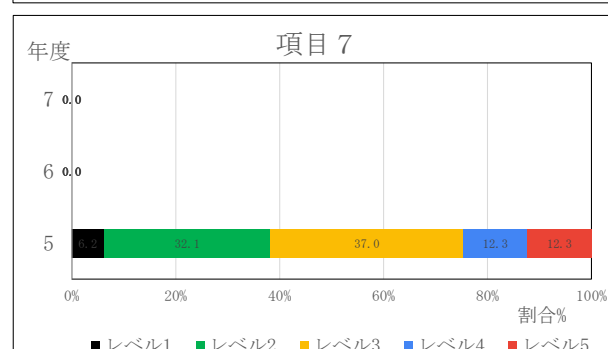
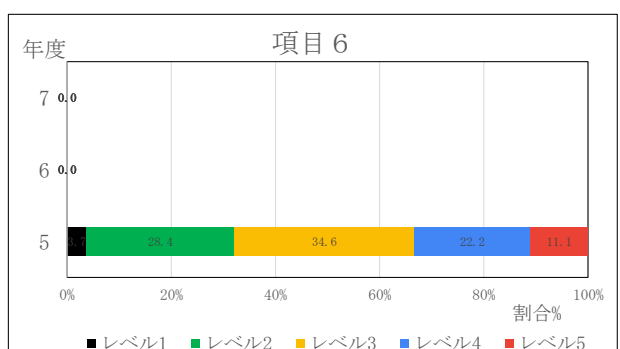
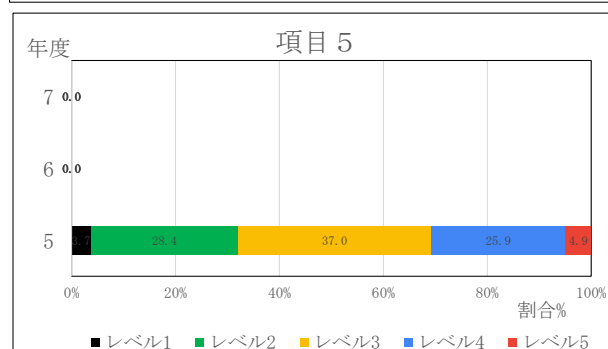
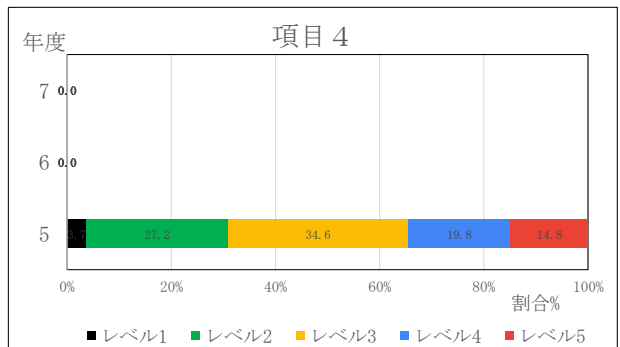
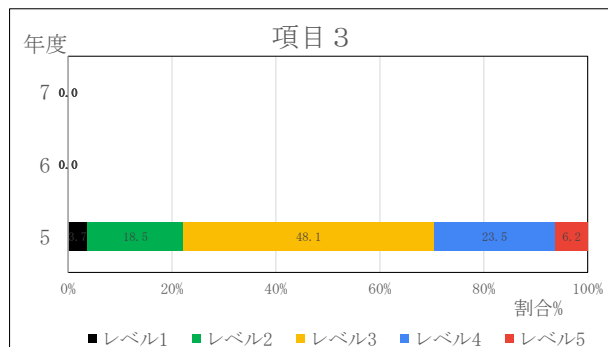
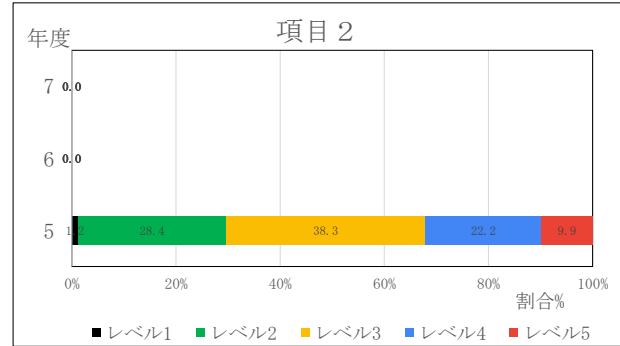
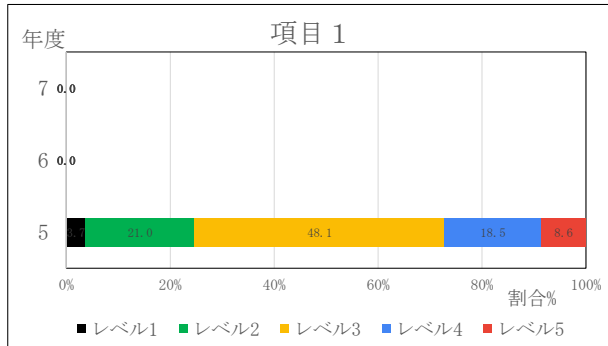
令和5年度 学校ルーブリックに基づく生徒の自己評価 経年比較

第1学年

1 実施日、回答状況

年度	実施日	回答状況		
		生徒数	回答数	回答率
5	令和5年12月19日	82	81	98.8
6			0	#DIV/0!
7			0	#DIV/0!

2 自己評価結果



3 分析・評価

項目3以外は昨年度の生徒より低い結果になっている。特に項目7の「粘り強さ」が足りないということに自覚的であることが読み取れる。ただどの項目もレベル4以上が20%以上という結果から、それほど悲観的なものではないと思われる。

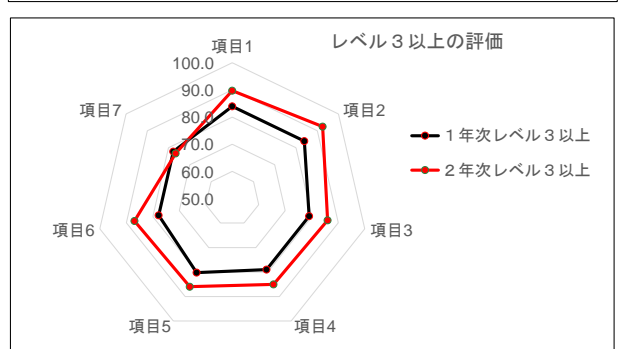
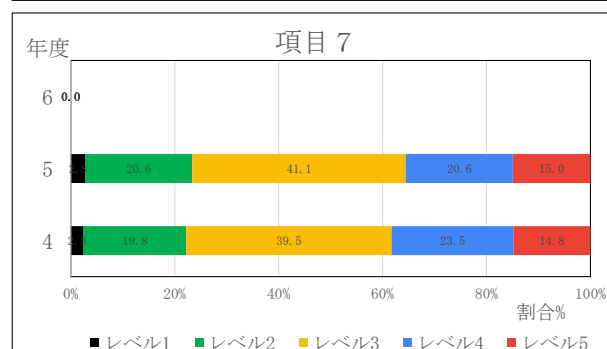
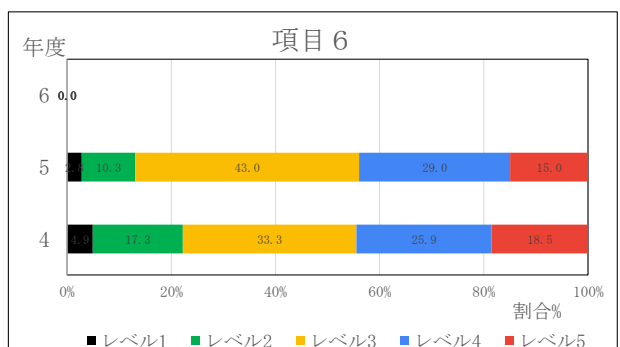
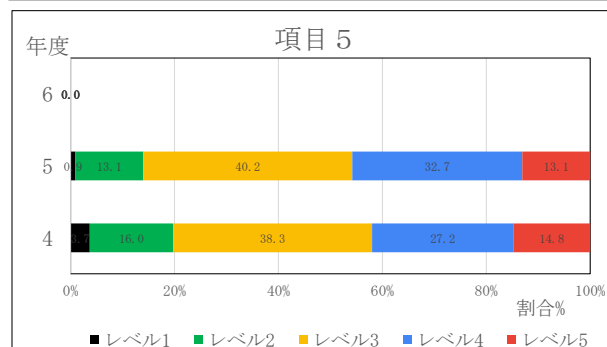
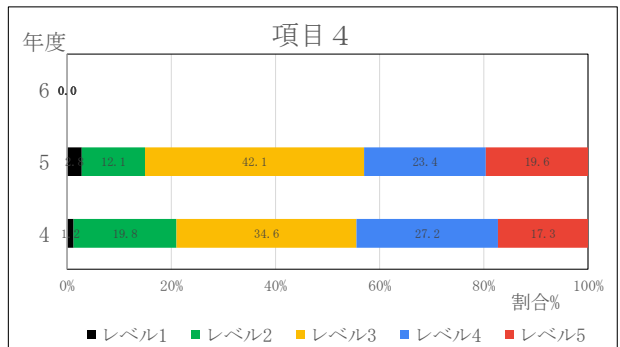
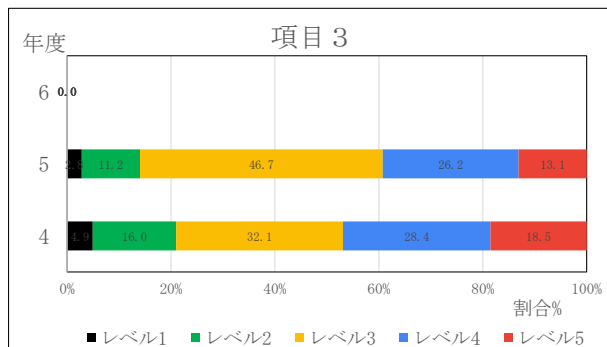
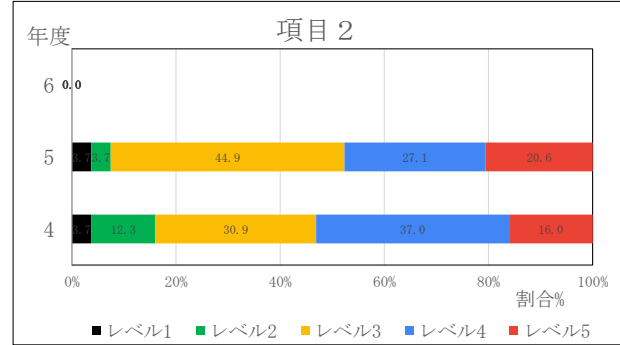
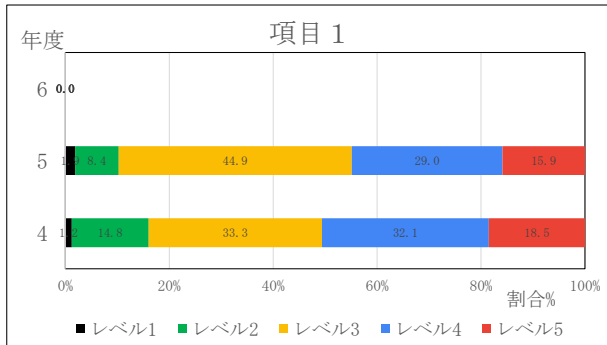
令和5年度 学校ルーブリックに基づく生徒の自己評価 経年比較

第2学年

1 実施日、回答状況

年度	実施日	回答状況		
		生徒数	回答数	回答率
4	令和4年12月20日	112	81	72.3
5	令和5年12月19日	108	107	99.1
6				#DIV/0!

2 自己評価結果



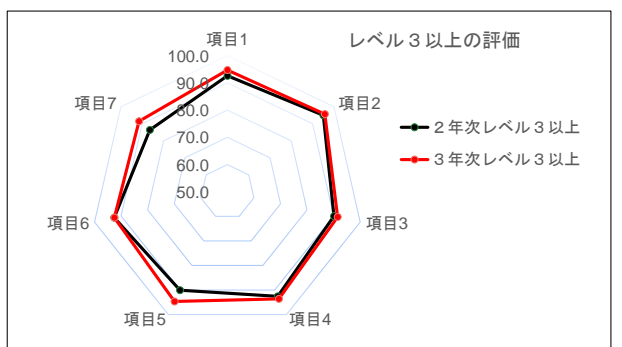
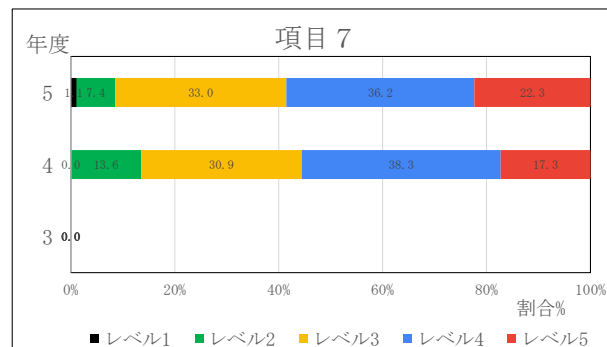
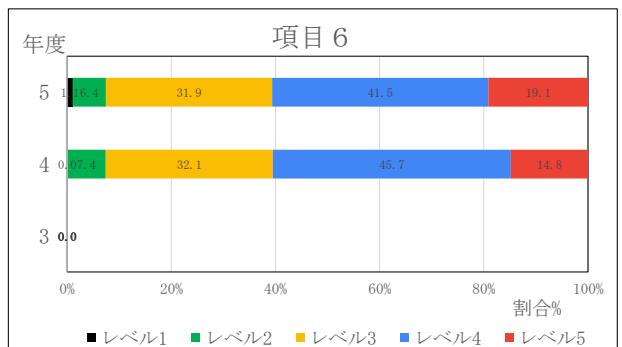
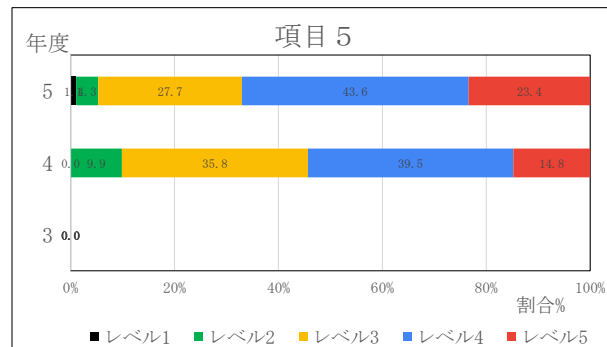
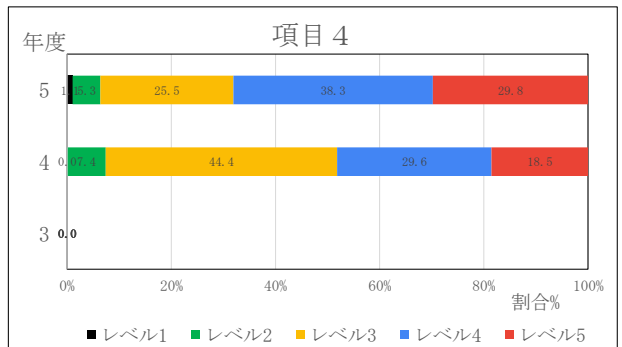
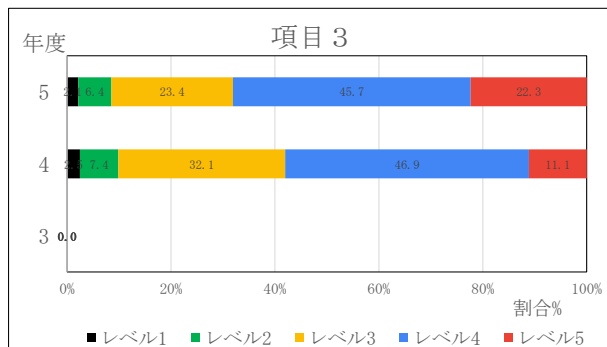
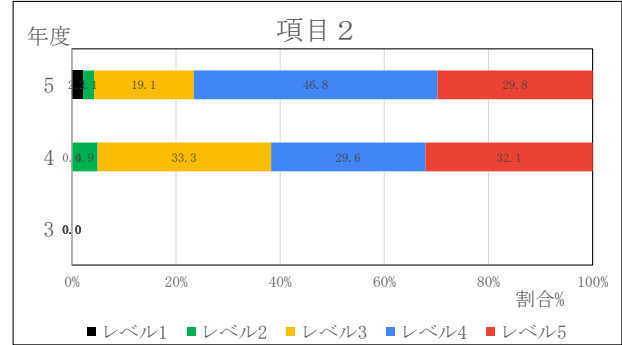
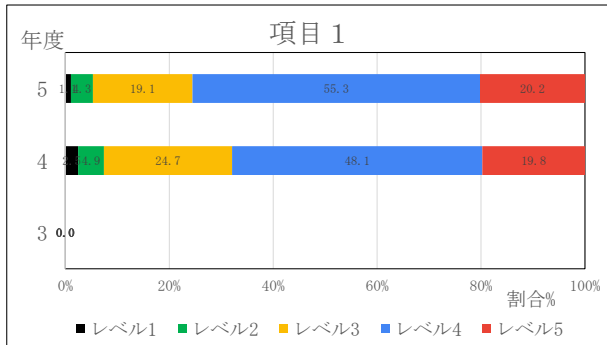
3 分析・評価

項目7以外はレベル3以上の生徒の割合が10%程度増えている。項目7は昨年度と横ばいで、1年生同様「粘り強さ」の欠如を自覚している。顕著な上昇が見られるのが項目1、2、6で、知識や技能面での蓄積や、集団や社会の中の自分という意識が醸成されていることの自覚が読み取れる。一方で、レベル1と回答した生徒の割合は現1年生とあまり変わらず、項目ごとに見ても昨年度とほぼ変わらないものが多い。成長を感じている生徒とそうでない生徒の二極化が進んでいると見ることもできるかもしれない。

1 実施日、回答状況

年度	実施日	回答状況		
		生徒数	回答数	回答率
3	実施せず		0	
4	令和4年12月20日	95	81	85.3
5	令和5年12月19日	95	94	98.9

2 自己評価結果



3 分析・評価

項目5、7で上昇が見られた。学びの振り返りや、答えのない課題に粘り強く取り組む姿勢を、高校生活の中で身につけてきたという思いが読み取れる。特に項目3、4、5、6、7はレベル5と回答した生徒の割合が昨年度より上昇しており、自己を肯定的に捉えることができていくことがうかがわれる。

学校評議員による評価	学校からのコメント
<p>I 学校における自己評価活動の取組み</p> <p>I. 1 『学校経営・運営ビジョン』と校内組織体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は本来、地域に支えられ地域とともにあるべきである。この学校が地域を学びのフィールドとして、地域に根差した学校を目指すことは極めて的を射ており特色となりうる。少子化、地方の衰退がすすむなか、地域に根差した教育を推進してもらいたい。 ・組織を生かし、PDCAのマネジメントサイクルによる効果的な実践と検証がなされている。 ・情報科では、日常生活における情報モラルの定着が課題となっている。ビジョンやルーブリック、質問紙などに情報モラルに関する生徒像の記載が必要ではないか。 ・本校の教育目標は、生徒一人一人の人生を充実させることにつながるため、ビジョンとしては適切と考えられる。机上の空論とならないように、生徒や保護者にどのように伝え、理解につなげていくのが課題でないか。 ・素晴らしいビジョンであるが、保護者や生徒に教職員の熱情が届いているかということに疑問を感じる。実際の場面による問題・活動の重要性を感じます。特に「地域課題探究活動」においては教職員の深い指導力を期待する。 <p>I. 2 『学校経営・運営ビジョン』の展開と自己評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ルーブリック評価を実施し、評価の質を高めたことは評価できる。 ・学年・部・教科とも、ビジョンに基づいて統一的に実施されている。生徒の授業評価は、教科の特質があるため、同じ設問で評価するのは難しいかもしれない。 ・昨年度の反省を踏まえ、保護者の実態に応じた評価方法の改善と工夫がなされ、回答率が上がった。今後も地道な働き方が必要である。 ・生徒の自己評価が計画どおりに実施できなかつた要因を探り、改善を図ってほしい。 ・結果の分析は行われている。しかし、毎年、思うように改善されない部分があることが残念である。学校だけで考えるのではなく、保護者や生徒たちからも意見を出してもらってはどうか。「みんなでよりよい学校をつくる」という場があってもよいと思う。 ・評価活動は学校改革に向かっていていると思う。熱意が、保護者へ、生徒へ伝わることを期待する。 <p>I. 3 広報とアンケート等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校からの情報は生徒や保護者に提供されている。大事なものは、それが保護者に伝わったかということである。 ・課題があれば、それをどのように解決するのかまでが一連の作業であろう。 ・保護者の理解と協力のもと、教育課題の改善に向けた取組がなされている。 ・ホームページの更新の頻度や内容等の評価についても伺いたい。 ・コミュニケーションは言葉や情報の相互のやりとりがあってはじめて成り立つものである。相手がどのような情報を求めているのかを把握しつつ、タイムリーに情報の発信をしてほしい。 ・学校課題の発見にアンケート等を行い、その公開に学校責任をもってあたっている。 <p>I. 4 取組み状況全体について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年・部・教科の自己評価において、方策ごとの評価がなされていない。総合評価では評価の具体的な内容が分からぬ。これで来年度の活動に生かせるのか。また、学校評価アンケートの質問項目4では教職員の前年度比較の低下が気になる。この項目や質問項目9などについては職員自己評価は100%に迫ってほしい。 ・4つのコースの充実を図っていくことで本校の特色が色濃くなり、生徒や保護者の満足度は高まっていく。 ・地域の小・中学生や地域住民と関わる場・機会をできるだけ多く設定したり、メディアも積極的に利用したりしてほしい。 ・地域からの理解と地域との連携は欠かせない。裸の王様とならないよう、教職員一人一人の意識を高め、この学校のために何ができるのかを真剣に考えていただきたい。そして、生徒一人一人としっかり向き合ってほしい。 	<p>本校の特色は、学びの柱を総合的な探究の時間（地域課題探究活動）に位置付けていることである。また、本校の役割を教職員一人一人が認識し、教職員が主体的に取組む組織体制が本校の強みである。組織力をさらに高めます。</p> <p>本校ならではの組織として企画開発部があり、そこが中心となり学校全体で地域課題探究活動に取り組んでいる。取り組んだだけで終わらないよう、課題を改善し、成果が得られたという評価を目指します。</p> <p>本校における情報発信は、保護者と生徒へはClassi（指導用アプリケーションソフト）や紙面で、校外へはホームページ等を使用している。知りたい情報を適切に発信できるよう努めます。</p> <p>適切なタイミングと内容による指導が生徒の興味・関心を引き出し、生徒の主体性を育成するとともに学びを深化させる。個別最適な学びの実現に努めます。</p>
<p>II 自己評価活動と学校評価全体への学校の組織的な取組みとその改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年感じるのだが、学校評価の質問項目10と11において、教職員と保護者との認識の乖離が生じている。昨年度も指摘したのだが、保護者が何を望んでいるのか、どのような点に不足を感じているのかを調査・分析し、改善する必要があるのではないか。 ・自己評価と学校評価が連動して行われている。また、保護者の回答方法もオンラインと質問紙を併用し、評価結果の周知の仕方や内容は分かりやすくなっている。 ・4つのコースの特色となる活動や取組を保護者や地域住民にさらに積極的にアピールしてほしい。 ・本校の役割について、その成果が今後問われることになる。偏差値では測れない個性の実現に向けての取組が、学校全体としてなされることを期待したい。 ・より具体的な活動の提示がなされるよう期待する。 	<p>より具体的に分かりやすく共通理解が図れる目標を設定し、日々成果を意識しながら指導を行うなど、スモールステップによる改善を重ねる。教職員は自己満足に陥らない自己評価に努めます。</p>
<p>III その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事や催しに積極的に参加していることは評価できる。特に伝統行事への参加は、継承という点からも大変に評価できる。これからも町の活性化のために若い感性を生かした取組を期待したい。 ・生徒が体験交流をする場と機会を計画的に設定し、生徒の自己啓発を促して目指す生徒像の実現に結びつくような活動や取組を行ってほしい。 ・地域課題探究活動は、地域への理解や気づき、自らの気づきを促してくれるものと思いますので引き続き取り組んでほしい。また、4つのコースについては、ミスマッチが起こらないように、また、多様な進路実現が可能になるように職業体験にも積極的に取り組んでほしい。 ・「地域課題探究活動」の充実を期待する。 	<p>本校は、地域から多大な支援をいただくことができ、かつ、地域から期待されている学校である。地域の人的・物的資源を最大限に活用し、本校のスクール・ミッションの実現に努めます。</p>